



図書室の役割

今日学校を回っていると、子供たちが夢中になって本を読んでいた。さて、殆どの学校には図書室がありますが、その役割とはどんなことがあるでしょう？

① 読書活動の促進に繋がる！

図書室には、お勧めの本の紹介などを通して、本に魅力を感じ、全ての子供に、本を選んで読む経験、読書に親しむきっかけを与えてくれます。そして、子供たちが、自由に好きな本を選び、静かに読みふける場を提供してくれます。



図書室の使い方の説明を受ける子供たち

② 子供たちの学習を支援する！

図書室は、学校のカリキュラムに沿った本や、課題に必要な資料を提供してくれます。総合的な学習の時間や5年生の水俣環境学習、6年生の平和学習など課題に応じた本を提供してくれます。本校の本だけでは足りない場合、市立図書館などと連携して一定の期間、情報源として必要な本を借りることも可能です。

③ 子供たちの居場所づくりになる！

図書室では、本を借りる方法や利用の仕方など必要なスキルを身に付けます。そして昼休みや放課後の教室内の固定された人間関係から離れ、子供が一人で過ごしたり、年齢の異なる様々な子供とのかかわりを持ったりすることができる場となります。子供たちが校内における「心の居場所」としていることも少なくありません。

今年から赴任した図書の市野瀬かおり先生は、「本は開くだけですぐに違う世界へ行ける便利なものです。最近では文字を読むことを面倒だと思う子が増えています。帯西グリーンの『相手の立場に立って』等、相手の気持ちになって考える力は、相手の気持ちを想像することで、培われる力だと思います。文章を読むことによって、書かれている状況、気持ち等、想像する力を養ってほしいと思います。」と述べています。図書室を上手に活用しながら、楽しく本を読みたいですね。

学校百景 その③:百葉箱

百葉箱とは、天気を調べるために温度計や湿度計を入れ、太陽の光や雨風の影響を受けないように守っている、木製の小屋のような白い箱のことです。本校の運動場正門側に設置されています。

学校では天気を勉強するため、校庭に設置されていることが多いです。大型の百葉箱の値段は30万円ほどで、学校で使える予算も限られるため、百葉箱は塗り直ししながら大切に使っています。

百葉箱は気象庁でも観測に使っていましたが、1993年に自動の観測機器に切り替えたため、使用中止にしたそうです。金属などは気温の変化で熱くなったり、冷たくなったりしやすいので、百葉箱は木製だそうです。

